



新年度を迎えて

やなせ おさむ
院長 柳瀬 治



武蔵台の桜が一斉に咲き誇る中、11名の新規採用職員を迎え新年度が始まりました。皆さんはどなたも気持ちを新たに、それぞれの目標を掲げてスタートしたと思います。

少子高齢化が進む中で医療は「治す」医療から「治し支える」医療への転換が図られています。当センターの理念は、「質の高い療育・医療サービスを提供し、重症心身障害児者の生活が豊かなものになるよう支援します」としており、もとよりこの方向を目指しています。「質の高い」という言葉には医療倫理の4原則が包含されていると考えます。まず、利用者に最善の利益を。そのためには常に研鑽を積み、高い水準の療育・医療を追究する必要があります。次に無危害原則。利用者の尊厳を守り、心身ともに傷つけてはならないということです。3点目は自律性の尊重。利用者・ご家族との様々な形でのたゆまない対話を通して、利用者の自己決定の実現を支援することです。4点目は公正。限りある療育・医療資源を効率的に運用し、できるだけ多くの利用者に公正、公平に受療の機会を提供することです。

当センターは多摩療育園と一体となって総合的療育センターを整備することが決まっていますが、昨年12月に公表された東京都長期ビジョンの中で多摩メディカル・キャンパスにおける療育ゾーンの中核として位置づけられることが示されました。昨年9月にその基本設計が完成し、今年の実設計を完成させる段階に入ります。今後新たな課題が生じてくることも予測されますが、そのようなときには基本理念に立ち戻り、皆さんと力を合わせてハード面でもソフト面でも日本をリードするような総合療育センターを目指していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

着任挨拶

ひらやま のぶお
事務長 平山 信夫



4月1日付けで事務長に着任しました平山です。

3月までは保健政策部保健政策課で、保健所の運営や保健所医師の確保・育成などに携わっていました。

以前、病院勤務の経験はあるのですが、療育施設での勤務は初めてであり、まだ、日も浅いですが、病院との共通点、逆に病院とは異なる点を日々実感しながら仕事をしています。

府中療育センターは、20年ほど前に視察させていただいたことがあり、初めて重度心身障害児者の施設を訪れたその時の印象は、今でも鮮明に覚えています。当時から入所している方も多数いらっしゃることで、まさに利用者の生活の場となっていることを強く感じています。

センターの運営理念は、「質の高い療育・医療サービスを提供し、重症心身障害児者の生活が豊かなものになるよう支援すること」です。そのためには、今後も利用者の皆さんのニーズに的確に応え、さまざまな職種の職員が連携し、一人ひとりの特性に応じたきめ細かなサービス提供を行っていくことが必要だと考えています。

また、長年の念願だったセンター改築については、昨年度基本設計が終わり、新センターの概要が目に見える形になってきました。これから実施設計に向けた検討が始まりますが、利用者やご家族の皆さんに満足していただけることはもちろんですが、職員にとっても働きやすい施設になるよう、施設面、機能面など幅広く検討していきたいと思えます。

これから何かとお世話になることが多いかと思えますが、どうぞよろしくお願いいたします。

退任挨拶

すずき かおる

前事務長 鈴木 薫
(現八王子福祉園長)



4月1日付で八王子福祉園長に転任になりました。府中療育センター在職は2年間という短い間でしたが、皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。

センターに着任したときは、新規採用時以来約30年ぶりの施設勤務で療育施設は初めてということで、担当業務についての基本的な知識・経験もなく何もかもが手探り状態でしたが、院長先生はじめ職員、関係者の皆様の温かいご指導・ご支援に支えられ、何とか私の役割を果たすことができました。改めて感謝申し上げます。

2年間の在職中、多職種のチーム活動による質の高い療育の実践の現場に関わることができたこと、新センターの基本設計の完成まで関わることができたことなど、大変嬉しく思っています。センターの全面改築については、これからいよいよ実施設計やソフト面の検討の段階に入り、詳細な検討と丁寧な調整が必要になるかと思えますが、職員、関係者の皆さんの英知を結集し、新センターが21世紀の療育に大きく貢献し、全国のモデルとなるような施設となることを願っています。

2年間、本当にありがとうございました。

着任挨拶

たなか みえこ

薬剤科長 田中 三枝子

4月1日付けで府中療育センターの薬剤科長として着任しました田中です。

平成の初めの若いころ、北療育医療センターで肢体不自由の子供や、後天的な障害を受けた方たちの医療に携わって以来、ほとんどを総合病院の医療現場で過ごしてきました。前職場の多摩総合医療センターにおいては、患者さんに安心、安全な医療を提供するためにチーム医療を推進し、がん患者さんへの支援として薬剤師外来の開設などに取組んできました。

今回の重症心身障害の方の療育という新たな職場においては、病院以上に多職種の職員とチームを組んで協働する職場であると考えています。療育については素人ですが府中療育センター職員の一員として、利用者さんのより良い環境整備にお役にたてるよう頑張りたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

平成26年度「福祉サービス第三者評価」の結果について

事務長 平山 信夫

福祉サービス第三者評価は、第三者の評価機関が様々なデータやヒアリング、施設調査などをもとに、福祉施設の運営やサービス等について客観的な評価を行い、その結果をインターネット等で広く公開する制度です。

当センターでは、利用者本位のより良いサービスの提供を目指して、平成17年度から継続して受審しているところです。

26年度については、特定非営利活動法人NPOサービス評価機構が評価機関となって実施しました。この度、評価結果を受領しましたので、その概要を報告します。

○ 入所（障害児入所支援（旧重症心身障害児施設））

- ご家族へのアンケートでは、総合的な感想は、「大変満足」「満足」の合計は94.8%で、前年度よりも約2ポイント上昇しました。
- 施設の「組織マネジメント」、「サービス提供」に関する各標準項目の実施状況に関する評価は、すべての項目（131項目）について満たしているとの評価結果となりました。
- 特に良いと思う点として、各職種が協働して、医療・看護の質向上の「チーム活動」を推進していることなど3点、さらなる改善が求められる点として、終末期ケアの充実に向け、積極的な取組が望まれることなど3点があげられました。

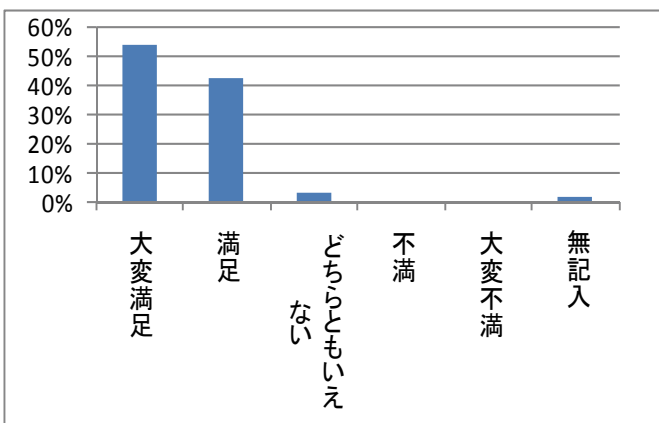
○ 通所（障害児通所支援（旧重症心身障害児（者）通所施設））

- ご家族へのアンケートでは、総合的な感想は、「大変満足」「満足」の割合は100%で、昨年に引き続き非常に高い結果となりました。
- 施設の「組織マネジメント」「サービス提供」に関する評価結果は、入所と同様でした。
- 特に良いと思う点として、臨時利用や家族への講習会の実施など、在宅生活を継続できるよう家族への支援にも力を注いでいることなど3点があげられました。一方、さらなる改善が求められる点として、生活スペースの改善に向けて、今後も継続して取り組むことなど3点があげられました。

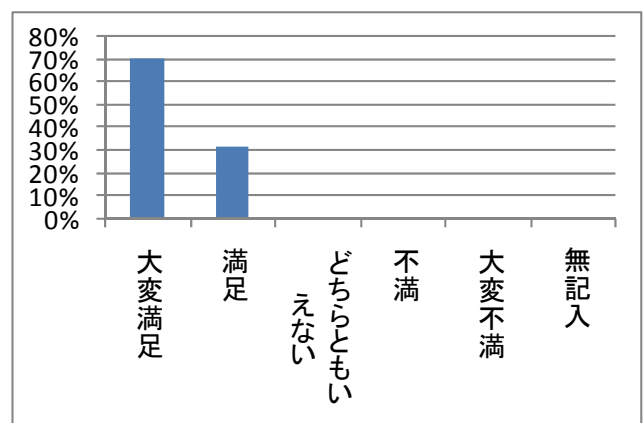
- 今後、入所・通所とも良い点はさらに充実を目指し、さらなる改善を求められた点については、各部門で改善に向けた検討、取り組みを進め、より一層のサービス向上に努めていきます。

なお、詳細については、玄関ロビー及び通所待合室の本棚に「福祉サービス第三者評価結果」と題したファイルがありますので、そちらをご覧ください。また、評価機関がウェブ上で公開した後は、当センターのホームページからもご覧になれます。

(URL: <http://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/hyoka/hyokatop.htm>)



利用者アンケート（入所）・総合的な感想



利用者アンケート（通所）・総合的な感想

着任挨拶

ながやま とよかず
事務次長 永山 豊和

4月1日付けで事務次長に着任しました永山豊和です。

私は、平成19年度から21年度まで障害者施策推進部に所属しており、当時、国における障害者自立支援法や児童福祉法の見直しに向けた検討の流れの中で、国や区市町村の皆様と連携しながら、どうしたら円滑に見直しが進められるか、どのように広報したら多くの皆様に理解していただけるのかなど、日夜頭を悩ましていたことを昨日のように思い出します。

今では、法が変わり、障害者総合支援法となり、障害者虐待防止法も制定され、障害児の方々を取り巻く環境がどんどん変わっているのを見て、職員の一人として、少しでも法の精神を体現できるよう取り組んでいかなくてはいけないと身が引き締まる思いです。

当センターでは、全面改築に向けた取組が進んでいます。昨年度は基本設計が完成し、今年度から、いよいよ実施設計に着手する予定としています。

今後とも、当センターの理念である、質の高い療育・医療サービスを提供し、重症心身障害児者の生活が豊かなものになるように支援していくことが実現できるよう、幅広い方々と協力・協働しつつ、利用者やご家族の方々にニーズに応えられる施設に向け、職員と心を合わせ、取り組んでいきたいと考えています。

よろしく願いいたします。

人事異動

	事務室	医局	薬剤科	検査科	栄養科	看護科	訓練科	指導科	合計
退職者数	2	1			1	11			15
転出者数	7		2		1	6		1	17
転入者数	8		2		3	11		2	26
新規採用者数	1	1				9			11
再任用者数	1		2	4	5	7	1	3	23
再雇用者数	1								1

※退職数・転入数には、退職後、引き続き再任用された職員を含む。

※再任用者数・再雇用者数は、平成27年4月1日現在数。

センター新聞編集委員

委員長 事務次長 永山 豊和

委員 医局 齋藤 菜穂、看護科 井上 恭子・須藤 裕子、栄養科 竹内 正充、
訓練科 東 琴美、指導科 目黒 由美子、検査科 永山 千里、事務室 古本 恭子

〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

Fax 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>